

平成28年 8月19日

草津市議会議長 西田 剛 様

草津市議会 プロジェクトK

代表 山田 智子

「第2回地方議会研究フォーラム in 東京」への参加について、下記のとおり報告書を提出いたします。

記

1. 期 間 平成28年7月20日（水） ～ 平成28年7月21日（木）

2. 日 程

・第2回地方議会研究フォーラム in 東京（渋谷区文化総合センター大和田）

7月20日（水） 基調講演・パネルディスカッション

7月21日（木） 講演

3. 参加者 プロジェクトK 山田 智子 杉江 昇 伊吹 達郎

4. 添付資料

別紙のとおり

# 「第2回地方議会研究フォーラム in 東京」参加報告書

プロジェクトK 山田智子

視察日時 平成28年7月20日(水) 13:00~16:30

7月21日(木) 10:00~14:30

視察場所 東京都渋谷区桜丘町23番21号

(渋谷区文化総合センター大和田 6階「伝承ホール」)

主催 株式会社 地方議会総合研究所

テーマ

## 1日目

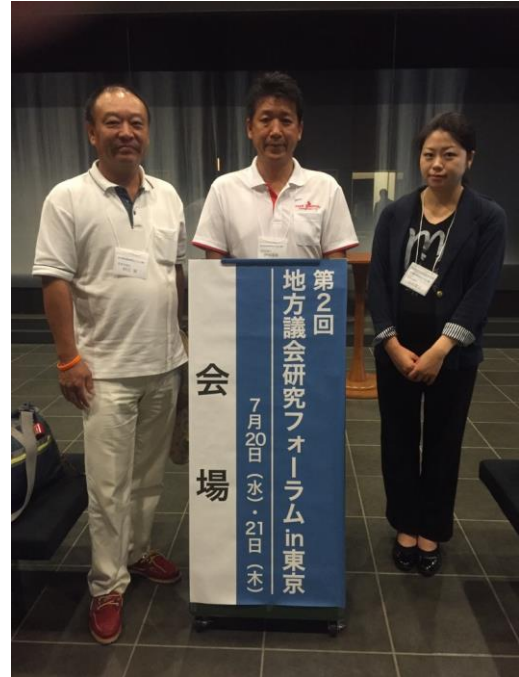
- ・基調講演 議会を巡る法律問題(訴訟を中心として)  
講師 弁護士 橋本勇
- ・パネルディスカッション 予算・決算と議会審議のあり方  
コーディネーター 山梨学院大学教授 江藤俊昭  
パネリスト 駒澤大学教授 大山礼子  
東京大学大学院教授 金井利之  
元安孫子市長 福嶋浩彦  
千葉県議会議員 小川智之

## 2日目

- ・「分権改革」と地方財政  
講師 静岡大学教授 川瀬憲子
- ・中心市街地活性化と議会の役割  
講師 帝京大学教授 中西穂高
- ・議会選出監査委員の必要性  
講師 明治大学政治経済学部講師 廣瀬和彦

参加者 プロジェクトK 山田智子、杉江昇、伊吹達郎

- 目次
- 1 視察の目的について
  - 2 講演等内容について
  - 3 草津市民へのフィードバックについて



### 【1 視察の目的について】

地方分権改革の進展や市町村合併により、都市に対する基礎的自治体としての役割が一層期待されるなか、市民の負託と信頼に的確に応えるべき議会のさらなる機能向上策を研究することを目的とする。

### 【2 講演等内容について】

※別冊資料参照

### 【3 草津市民へのフィードバックについて】

2日間にわたる研修であり、基調講演やパネルディスカッション等が行われ、全国の市議会から出席されていた。特に、初日に行われたパネルディスカッションと、二日目の中心市街地活性化と議会の役割について、印象に残っている。

#### パネルディスカッション 予算・決算と議会審議のあり方

4名のパネリストの「予算・決算と議会審議のあり方」の主張について

##### ①駒澤大学教授 大山礼子

フランスの予算決算について

##### ②東京大学大学院教授 金井利之

節度を失った予算修正は心外であり、市民のためにならなければ修正権はいらないのでは。修正して悪くならないといけない。議会は予算要求する位置付けであり、要求と査定、どちらも行うのは良くない。

##### ③元安孫子市長 福嶋浩彦

市長時代、議会と12年間予算の調整はしなかった。予算委員会が終わると執行部が帰り、委員で修正等、修正要求について議論をし、まとめていた。市長予算は議会審議で

変わるのは当たり前であり、その代わり、議会と事前調整は一切しない。

④千葉市議会議員 小川智之

5期目で現在42歳。議会基本条例を作る議会改革ではなく、条例を作らない改革。個人のパフォーマンスを高めることが、真の議会改革である。

以上の主張より、元安孫子市長福嶋氏は、そもそも修正ありきで予算を出すので、議会もよりしっかりした予算審査を行い、意見を交わしながら予算の原案修正を出していくことは非常に良いことだと感じた。

一方で金井氏は、節度を失った予算修正はするべきではなく、修正権を乱用してはいけないと主張された。確かに修正してより悪くなってはいけないし、そもそも議会は予算要求をする立場であるのに、査定もするというのは市民にとってよくないとの意見もあるかもしれない。しかし、修正のために議会が意見を交わし、市民のためによりよくなるような予算修正を行うことは、議会活性化となり非常に良いことである。このような議論を交わすことは、一人の議員だけの意見だと偏る可能性があるが、個々が議論を交わすことで議会としての意見となり、市民全体のためとなるように意見がまとまることで良い修正となる。

この我孫子市のような例は珍しいかもしれないが、福嶋氏の根本的な姿勢は、住民の声をきいて予算も作るということであり、その原案を最終議会が審議し、徹底的に議論し、最終的に議会が決めるというものである。首長が出したものがすべて通るなら、究極議会はいらない、という考えが福嶋氏の考えである。このような、市民に見える形で予算過程も決まり、議会で原案修正が行われ、すべてを市民に公開していくということは理想的であり、また首長の考え一つでここまで変わるものなのだと非常に印象深い講演であった。

草津市では、今すぐこのような仕組みにできないかもしれないが、市長の予算に対して、議会が議論を深め、必要があれば原案修正をしていくべきである。やはりその目的は市民のためになることが大前提であり、なぜそのような議論になったか、過程を主権者である市民に見えるようにしないといけない。これからますます議会の活性化が必要である。

中心市街地活性化と議会の役割 講師 帝京大学教授 中西穂高氏

地域活性化とは何か・・・

1、地域経済活性化 2、地域住民の活動の活発化

大きな地域資源3つ

1、産業関連 2、人 3、観光 → どの地域にも何かは必ずある！

よく地域活性化を担う人は「よそ者・若者・ばか者」と言われているが、これだけでは地域は活性化せずバラバラになる。そのための議員の役割は「地元・ベテラン・賢者」の役割を担うことである。

桃太郎の戦略は非常によくできており、キジ（情報）サル（知識）イヌ（行動力）の

組織的総合力を行う。また、一方的な命令ではなくキビ団子を提供し、ギブアンドテイクの相互関係を築く。最後に「鬼退治に行く！」という大義名分（つまり、地域のためになるんだ！）という、社会的正義に基づく行動を行う、ということが地域活性化になるとのことである。

この講演では、地域活性化のために必要なこと、また、地域活性化のために、議員に議会に求められていることが分かりやすく説明されており、特に地方議員は、地域を一番よく知っている人、他の地域のこともよく知っている人として、大きな流れの中で地域のことを考えることができるので、地域活性化を担う重要な役割である。

地方議員がよそ者・若者・ばか者といわれる方々と連携をし、地域活性化に向けて取り組んでいかなければならない。

特に草津市は、活性化している学区と、そうではない学区とで二極化している。人口が増える地域と減少している地域。日本の縮図のような本市では、特に人口が減少している地域で、どのように取り組んで活性化していくのかがこれからの課題ある。講演でもあった、地域を一番よく知っている人、他の地域のこともよく知っている人である地方議員は大きな流れの中で地域のことを考えることができる人として、地域活性化を担う重要な役割であるため、地元のことだけではなく、あらゆる地域、世代へ関わり、地域活性化に向けて積極的に活動していくよう努めていきたい。